

えりこの  
シンデレラ

# CINDERELLA





# CINDERELLA

えりこのシンデレラ





あるひ えりこちゃんは  
まちでふしぎな たてものを 見つめました。

「きのうまでは なかったのに。  
はいってみたいなあ」

えりこちゃんは、おもいきって  
たてももの とびらを あけてみました。







「うわあ たくさんほんがある！」

すると、どこからともなく こえが きこえました。

(ようこそ えりこちゃん。  
どれでも好きなほんを よんでいいのよ)

えりこちゃんは だいすきな  
“シンデレラ”の えほんを てにとりました。





えほんを ひらいたとたん、  
えりこちゃんはまぶしいひかりに つつまれました。  
「あれ？わたしの からだが！」

えりこちゃんの からだは みるみるちいさくなり、  
“シンデレラ”の えほんの なかに  
すいこまれて いました。



「シンデレラ、いつまで ねているつもりなの？」

おおきなこえで えりこちゃんは めを さました。

「わたしのこと？」

「なにを ねぼけているんだい？ さあおきて はたらきなさい！」

えりこちゃんが かがみを みると、

そこには えほんでみた シンデレラのすがたが うつっていました。

えりこちゃんは、シンデレラに なっていたのです。





えりこシンデレラの すむ いえには、  
おかあさんと ふたりの おねえさんが すんでいました。  
でも ほんとうの おかあさんでは ありません。

「そうじも せんたくも りょうりも、ぜんぶ おまえの しごとだよ」

おかあさんと おねえさんたちは  
とても いじのわるい ひとたちで、  
えりこシンデレラに めいれい ばかりしました。







えりこシンデレラが あたえられたのは、  
ぼろぼろのふくと きでできた おもたいくつ。

「おまえに ベッドは もったいないわ」

そういわれたえりこシンデレラは、  
まいにち はいだらけの  
だんろのまえで ねました。



あるひ おしろで、  
ぶとうかいがひらかれる ことになりました。  
くにじゅうの むすめのなかから、  
おうじさまが はなよめを きめるのです。

ぶとうかいにいく おねえさんたちの  
ドレスの じゅんびや おけしょうを  
えりこシンデレラは てつだいました。

「おまえのような みすぼらしい むすめは  
つれて いかないよ」

とって、3にんは でかけていきました。





ひとりぼっちで おるすばんをする

えりこシンデレラ。

そこに、まほうつかいの おばあさんが あらわれました。

「えりこシンデレラ、

おまえを ぶとうかいに いかせてあげよう」

「ほんとう？」

「かぼちゃを ひとつ、ねずみを 6ぴき よういしなさい」







えりこシンデレラは いわれたとおり  
かぼちゃを ひとつ、  
ねずみを 6匹き よういしました。  
おばあさんが まほうのつえを ふると  
かぼちゃは りっぱな ばしゃに、  
ねずみは うまと “ぎよしゃ”に かわりました。



「ありがとう、おばあさん。でも こんな ふくでは いけないわ」

おばあさんが もういちど まほうのつえを ふると、  
こんどは ボロボロのふくが きれいな ドレスに かわりました。  
そして きでできた くつも、  
ガラスの くつに かわっていました。







「でも このまほうは 12じには とけてしまうから、それまでに かえってくるんだよ」

「わかりました、やくそくします」

えりこシンデレラは かぼちゃの ばしゃにのって、  
ぶどうかいへ むかいました。



「あの うつくしいひとは だれなんだろう？」

ぶとうかいでは だれもが えりこシンデレラに めをうばわれました。  
おうじさまは えりこシンデレラを きにいて、  
ダンスを もうしこみました。

みんなが みまもるなか、おうじさまと えりこシンデレラは  
てをとりあつて なかよく おどりました。

おねえさんたちは それがえりこシンデレラだと きづいていません。







おうじさまの たのしいじかんは  
あつというまにすぎ、  
(リーン ゴーン)  
12じの かねが なりました。

「いけない、まほうが とけてしまう」

えりこシンデレラが  
いそいで はしたため、  
ガラスのくつが かたほう ぬげてしまいました。



おしろに のこされていた ガラスのくつを  
ひろった おうじさまは

「あの うつくしいひとと けっこんしたい」

とって、くつの もちぬしを  
さがすことに しました。







つぎの ひから、くつの もちぬしさがしが はじまりました。  
つかいのものが くにじゅうの むすめに  
ガラスのくつを はかせて まわります。  
えりこシンデレラの いえにも  
つかいのものが やってきました。

おかあさんは ふたりのおねえさんに  
くつを はかせようと しました。  
なんとしても、どちらかを  
おうじさまの およめさんに したいのです。  
おねえさんたちは、あしを ぎゅうぎゅう おしこみましたが  
ちいさな ガラスのくつには はいりません。



「わたしにも はかせてください」

えりこシンデレラが ゆうきをだして  
いいました。

「おまえが はけるもんですか」

おかあさんたちは えりこシンデレラを  
わらいました。

ところが、どうでしょう。

えりこシンデレラが あしを いれてみると、  
ガラスのくつは シンデレラに ぴったりでした。

おうじさまと けっこんするのは、  
えりこシンデレラです。





おうじさまと えりこシンデレラは  
おしろで せいだいな けっこんしきを あげました。  
うつくしい えりこシンデレラとの けっこんを  
みんなが しゆくふくしました。

えりこシンデレラは いつまでも、  
おしろで おうじさまと しあわせに くらしました。







メッセージ

---

いつも げんきなえりこちゃんがだいすきです。

あまりにげんきすぎて

ママのほうか ぶりまわされたり、

しかってしまったりすることがあるけれど、

げんきなえりこちゃんがだいすきです。

もうすぐおねえちゃんになるけれど、

シンデレラのように

やさしいきもちをわすれないでね。

---

0000年00月00日



えほん はい

# 絵本に入ろう。

EHON INC.



ehon-inc.jp



## えりこのシンデレラ

作 EHON INC. (えほんインク)  
文 山名 美穂  
絵 近藤 達弥 (<https://tatsuyakondo.myportfolio.com/>)

発行所 株式会社アッタデザイン  
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ607

印刷・製本 石川特殊特急製本株式会社  
総合企画・編集 株式会社アッタデザイン (<https://attadesign.co.jp>)

この本に関するお問い合わせ先（落丁や乱丁本について／ご意見・ご感想等）は、[support@ehon-inc.jp](mailto:support@ehon-inc.jp) まで。  
本書の一部あるいは全部を無断転載、複写・複製することを禁じます。法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。



